

活動の場を作り、より多くの地域の人が参加できる機会を提供している。



明石で活躍する人に逢うツアー in 魚の棚

③ ウェルネスハート

自分自身が病気で視覚障がい者となり「できることを見つけてやれることにチャレンジする」という言葉に感銘を受けて活動を始めた。ノルディックウォークをヒントに安全に歩けるブラインドポールウォーキングのイベントなどを行っている。他にも、障がいをもった人がもっている長所を生かした働き方の検討、災害対策など意見交換をしている。支援しながらユニバーサル社会を構築していきたいと考えている。

④ 江井島まちづくり協議会

市のまちづくり計画の江井島地区分を市から委託を受けて作成している。イベントや行事を実行委員会形式で行うことで、人材育成や協議会への関心を持つ機会、団体との連携などが図れる。今後の課題は、人材の活用やハード面の整備、高齢化に対応したまちづくり。

○ 分科会交流会

公共施設が併設した建物内にある広場で、一般の方が行き交う中に行われ、かなり開放的な空間であった。料理は明石の地元名物の料理や地酒が並んだ。

■ 11月10日（2日目）

バス移動をしながら、明石の名所や、明石で活躍する方の現場を視察。落語家の桂阿か枝さんがバスガイドとなり、明石の小噺を披露してもらった。

フルーツバスケット保育園では、主婦として子育てをする中で、子どもの見守りや気軽に相

談できる子育て支援の場所づくりの活動を始めた。保育園では子育て中の女性が働きやすい職場づくりを目指している。

○ 明石コミュニティ創造協会の説明と分科会振り返り

明石コミュニティ創造協会の活動は主に3つ

① 市民が地域づくり、まちづくりに参画することへの支援

② 複合型交流拠点ウィズあかしの運営（市からの委託）→男女共同参画センター、生涯学習センター、市民活動支援センターの機能を委託され運営。また、ウィズあかし内には観光協会、消費生活センター、国際協会も併設されている。

③ 市民参加の支援（ボランティアのマネジメント育成など）明石市は小学校区と中学校区ごとにコミュニティセンターがあり、一部は学校に併設されている。中学校区のコミュニティセンターは生涯学習センターの役割を担う。明石市は全国でも早くから「地域自治」をまちづくりの基礎に位置づけており、自治基本条例により「協働のまちづくり組織」を設立。明石コミュニティ創造協会ではこの組織づくりのサポートも行っている。協働のまちづくり組織では、従来の自治会活動を発展させ、地域の課題解決の取組を楽しみながら主体的に行い、地域の「やりたい」を実現できる組織づくりを目指している。明石コミュニティ創造協会では協議会活動のサポートを行っているが、組織の自立を念頭に適切な介入度合いを心がけている。その中でも対話の機会を作ることが、主体的な組織としての意識づくりにおいて大変意味のあるものだと実感している。



フルーツバスケット保育園